



応援します、生涯学習 — ふえる知識と仲間の輪

令和元年7月1日発行

あい風通信

41号

(学びのスタンプ通算 48 号)

7～9 月 主催講座紹介 多彩な体験型講座！

講座5 「石狩歴史散歩」 講師 石狩市郷土研究会会長 村山 耀一

第1回「生振地区の碑と開拓の歴史を訪ねて」 7月13日(土) 9:00～12:30

第2回「浜益地区の碑と歴史の痕跡を訪ねて」 7月27日(土) 9:00～16:30 (昼食持参)

集合場所 石狩市公民館 受付／8:30～ バス乗車／8:50 出発(時間厳守)／9:00

石狩に住んで、石狩のことをよく分からないと話の方が多くいるようです。たとえば、長く札幌方面に勤めて退職した方や、石狩で生まれ育った方の中にも「石狩のことをよく知らない」と聞きます。講座では、道央で最も古く 300 年以上の歴史を持つ石狩の歩みを、先人が残した多くの碑や歴史の痕跡をバスで訪ねて学びます。

講座6 「夕張を訪ねて」 講師 夕張市企画課主任 左近 航

日 時 7月24日(水) 8:30～17:30 受付 8:00～石狩市公民館 申込締切 7月8日(月)

見学場所 夕張市役所 石炭博物館 メロン共同選果場

日本唯一の財政再生団体として、財政再建に向けた日々の挑戦を学習します。また、夕張は石炭の町であったこと、メロンの町であることから、観光産業についても学習します。

講座7 「発展する石狩湾新港の役割」 講師 石狩湾新港管理組合 担当者

第1回「北海道の国際物流を支える役割」 8月23日(金) 9:00～12:00

第2回「最先端の物流センターを見学しよう」 9月2日(金) 9:00～12:00

場 所 石狩湾新港、ホクレンパールライス、(株)エース石狩物流センター

集合場所 石狩市公民館 受付 8:30 申込締切 8月8日(木)

北海道開発の一大プロジェクトとして、石狩湾新港は札幌圏の海の玄関として整備が進められている重要港湾です。輸出入総額は道内3位、コンテナ取り扱いとは道内2位の港湾です。LNG 輸入基地が稼働し、北海道の物流とエネルギーを支える重要拠点となっています。

講座8 「日高路の旅～むかわ竜とアイヌ文化の里を訪ねて～」

日 時 9月6日(金) 8:30～17:30 集合場所：石狩市公民館 申込締切 8月23日(金)

見学場所 鶴川町穂別博物館・二風谷アイヌ文化博物館 他 *申込多数の場合抽選で決定します

むかわ竜は穂別で見つかった国内最大の恐竜の全身骨格の化石です。穂別市街で生きている化石「メタセコイヤ」の街路樹や古生物のオブジェが設置されている「進化の道」を散策します。平取では沙流川流域に息づくアイヌ文化継承の地、二風谷コタンを訪ねます。古代に夢をはせアイヌ文化にひたる旅になります。博物館や資料館もめぐります。

講座9 「地震予測研究と石狩市の防災の現状」

講 師 第1回・第2回 北大大学院理学研究院 教授 高橋 浩晃

第3回 石狩市総務課危機管理担当主査 伊藤 道人

第1回「胆振東部地震をどう見るか！」 9月19日(木) 10:30～12:00

第2回「日本海の地震予測と津波」 9月26日(木) 10:30～12:00

第3回「石狩市の防災の現状について」 10月3日(木) 10:30～12:00

会 場 花川北コミュニティセンター 申込締切 9月5日(木)

胆振東部地震から、私たちはどんな教訓をくみ取り、今後の大規模地震の発生を想定し、日本海の地震予測と津波について心構えと対処方法を考えます。さらに、石狩市の防災対策を通して地震等の災害から身を守るために、市民の皆さんがどのように向き合っていくべきかを学びます。

市民カレッジデータ

(6月24日現在)

○登録者～193人

○連携団体～107団体



ロゴ制作者

丸山英里子さん

まちの先生企画講座紹介

まちの先生企画講座2「女性のための初心者健康マージャン」 講師 浦原 史起

第1回「マージャン」ってどんなゲーム? 7月4日 第2回「アガる」ために必要な基本 7月11日

第3回「リーチ」してみよう 7月18日 第4回「基本的な役」を覚えよう 7月25日

第5回 実は貰えます「ポンとチー」 8月1日 *毎週 木曜日 9:30~11:30 市公民館にて

◆健康マージャンは「賭けない」「飲まない」「吸わない」が3原則のマージャン

◆マージャンを全く知らない人や並べるくらいならできるといった初心者向けの講座です

◆頭と指を同時に動かす脳トレーニングに貴女も挑戦してみませんか?

◆5回通して受講する事が条件です

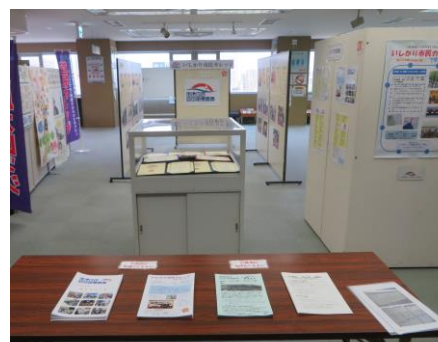
◆申込みは終了しました

広く道民にPR! いしかり市民カレッジ展を開催しました

今年で7回目となる「いしかり市民カレッジ展」を5月9日から5月28日まで、かでの2・7の情報交流広場(まなびの広場)で行いました。

いしかり市民カレッジの仕組みや今年度の講座一覧、講座ポスター、昨年開催の講座風景、修了証などを展示し多くの方が来場されました。近年受講者に道民カレッジ生が増えています、更に増やしていきたいと思っています。

来年も開催を予定していますのでよろしくお願い致します。



第11回 いしかり市民カレッジ連絡協議会に18団体参加

6月20日(木)、第11回連絡協議会を行いました。18連携団体14名、運営委員13名が出席。林運営委員長挨拶の後、連携団体とは何か?について、徳田委員が説明しましたが、参加したみなさまには理解して頂けたようです。三上企画・事業G代表が市民カレッジ主催講座について説明した後協議に入り、活動の現状と講座情報について各団体から発表があり、意見交換を行いました。連携団体からは、「連携講座



ロゴマークは市広報に掲載できなかった」「市民カレッジ主催講座の受講者年代層は?」「30分くらいの短時間講座も連携講座に出来ないか」「講座の対象を子どもにも広げて欲しい」「どういうものが学びの要素なのか、もうひとつ理解できない」「助成金申請のノウハウを指導してもらえないか」などの声が上がりました。

最後に、市民カレッジは市民の生涯学習向上の一環として活動を進めており学びについてはこだわっていきたいことを訴え、ご理解をお願いしました。質問も活発で、意義のある協議会になりました。

市民カレッジ夏季交流会(焼肉パーティ)のご案内

と き 7月25日(木)17:30~ *雨天延期26日(金)

ところ サスイシリの杜

参加料 1,500円(当日会場で)

申込め切 7月12日(金) カレッジ事務局(公民館)へ

電話 0133-74-2249

真夏の夕方、焼肉とビールなどを飲みながら、カレッジ生と運営スタッフがフリートークを楽しむ恒例の行事です。年々カレッジ生の参加が増えています。あなたも参加しませんか!

雨天延期時は、参加申込者に連絡します

受 講 者 の 声

講座終了時に受講者の皆さんからいただいた感想・ご意見を要約して紹介しています

◇講座1「誰も知らない石狩海岸の素晴らしさ」

「成人して約60年前に花畔に移住しました。その後何度か訪ねましたが、砂丘が近くに感じ不思議に思っていました。とても分かりやすいお話でした。ただただ風が強く寒い印象でしたが誇りに思われました」
「一度壊された自然は元に戻すのには大変な努力と年月が必要であり、植物の保護活動の大切なことを知りました」「石狩に住んでいながら石狩海岸の事はほとんど知らずにいました。丁寧な説明を受け、海岸の成り立ち、多種多様な植物たちがこんなにあるのを知り素晴らしい所だと感心しました」

◇講座2「アイヌと縄文」

「アイヌと縄文、瀬川拓郎（前旭川博物館館長）講師の2回に渡っての講座、縄文とアイヌの考え、世界観、他界観、古代神道との関係、今に残る思想、日本列島には失われたかに見える二千年以上前の縄文の思想が今なお息づいているらしい事等を考察できることを学ばせて頂き、とても素晴らしい講座でした。お礼申し上げます」

◇講座3「明治期の商都小樽」

第1回「明治時代の子供になった気分で講義を聞きました。当時の地図、写真を見ての説明は大変わかりやすかったです」「小樽の歴史にすごく興味がわいてきて楽しい講座でした。菅原先生素晴らしい」
第2回「明治時代に小樽の栄えていた様子が近江商人の活躍であったことがよく分かりました」「西川日記が小樽近郊の明治前半期の歴史を示す貴重な書物と理解できました」「テンポが良く、明瞭な解説、聞きやすく分かりやすく楽しい講座でした」

◇まちの先生企画講座1「大人のための絵本セラピー」

「よい時間でした。やさしい気持ちに満たされました。ことばの力、絵の力がしみじみ伝わるという感覚を覚えました。絵本から人生を感じる時間というのも大切ですね」「毎日の生活に追われ、大切なものの足元の事を忘れていた事を改めて考えさせられた。新鮮な気持ちにさせられたひと時でした」「絵本に興味があったので楽しめました。自分の好きな絵本も紹介してみたいと思いました」

あなたの提案を講座企画に活かすために

～ アンケート調査による提案をデータベース化 ～

いしかり市民カレッジの主催講座については、市民カレッジ運営委員の企画・事業グループが中心になり講座を企画してきました。その講座の企画については、市民カレッジ運営委員の希望だけでなく、受講者の皆さんの希望も参考にするために、以前は『あい風通信』に希望講座のアンケート用紙を同封するなどして受講者の皆さんの声を集めてきました。

昨年度からは、より受講者の皆さんの希望講座に耳を傾けるため「講座の感想」用紙と一緒に「希望講座アンケートのお願い」を配布してきました。このアンケートは、人材（市内・市外）やテーマの発掘という受講者からの情報収集も含んでいます。

今年度の講座10「石狩における明治・大正期の輸送の歴史とその時代背景」は、受講者のアンケートを参考にして企画された講座です。

そして、「希望講座アンケートのお願い」を通して受講者の皆さんから寄せられた希望講座については、データベース的な資料作成を行うなどして今後の講座企画の参考にしていくつもりです。これからも受講者の皆さんの希望講座へのお声をよろしくお願い致します。

〔企画・事業G代表 三上正一〕

チョコっと

いしかり学 <9>

北前船に改めて脚光

～石狩とかかわりのある寄港地を訪問～

石狩市郷土研究会事務局長 石黒 隆一

江戸時代末から明治後期に、石狩に繁栄をもたらした北前船が、今、改めて注目されています。かつての寄港地であった石狩市を含む 45 の市町が、日本遺産に認定されたからです。

私は、道の駅石狩「あいりーど厚田」の北前船ジオラマを作ったご縁から、5 月に 18 日間、走行距離 3,500 km におよぶ北前船寄港地を巡る旅をしてきました。この旅のきっかけは、岡山県倉敷市の下津井港を訪問したいという願いでした。

厚田には明治 24 年に建てられたニシン 5 万石の豊漁があったことを感謝する記念碑が残っています。当時、ニシンはほとんどがニシン粕という肥料に加工され、莫大な富をもたらしました。5 万石のニシンの製品価格を今の金額にすると約 50 億円になります。

ニシン粕の最大消費地が今の倉敷市だったのです。倉敷や岡山市南部はかつて「吉備の穴海」と呼ばれる広い海でした。平和な江戸時代に入るとそれまでの築城技術を応用した干拓が始まり、広大な農地が広がりました。しかし、そこは塩の残留で米を作ることができない土地だったのです。倉敷の人々は塩に強く価格が高い綿花を栽培しました。必要な魚肥として初めは瀬戸内の雑魚を使っていましたが、干拓が進むにつれて、北前船が運ぶ北海道のニシン粕が高値で求められました。

〔↑厚田の豊漁記念碑で〕

実は、このつながりを実感させてくれたのは、日本遺産の寄港地間連携プロジェクトとして私が担当した石狩と倉敷の子どもたちの交流でした。「大人も負けないぞ」と、下津井の皆さんを訪問し、交流を深めることができました。



石狩の風物

市の花～はまなす

石狩市の花は、はまなす。灯台と組み合わせた図柄は石狩市のカントリサインにもなり、人々に親しまれています。しかし、はまなすを愛するまちは石狩だけではなく、道内 14 の市町村が市や町の花に指定しています。その 14 のまちの分布をみると、日本海側が奥尻町から稚内市まで、オホーツク海側が紋別市から斜里町まで、太平洋側が標津町から新ひだか町までと、北海道の海岸線をぐるっととりまいています。なるほど北海道の花に指定されているのも当然です。



さらに、はまなすは本州の人にも愛されて、南限地として日本海側は鳥取県大山町が、太平洋側は茨城県鹿嶋市が町や市の花とし、天然記念物にもなっています。また、はまなすは実用面でも有用で、昭和 20 年代から 30 年代にかけて、石狩では香料の原料となる花卉摘みが盛んでした。近年は、地場産はまなすを使ったはまなすティーやクリームなどを利用したまちづくりを目指す人たちも増えています。

〈文 石井滋朗〉

編集後記

「チョコっといしかり学」は今回から石黒隆一さんに連載「北前船」をお願いしました。石黒さんは道の駅の北前船ジオラマの制作者で北前船について精力的に調査・研究されていますので、大変面白いコラムが期待できます。5 月には石狩市の文化財が日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に追加されましたが、市民カレッジは講座「北前船ものがたり」を開催したこともあり、石狩の歴史・文化の振興に今後も寄与できることを願っています。(MT)



■発行 いしかり市民カレッジ運営委員会

編集担当 鈴木、石井、太齋、徳田、三上、光川

■お問合せ 石狩市公民館

石狩市花川北 6 条 1 丁目 42 TEL&FAX : 0133-74-2249

E-mail : kouminkan@city.ishikari.hokkaido.jp

ホームページ [いしかり市民カレッジ](#) [検索](#)